

橋梁 基礎

特集 橋梁の長寿命化



弾性波診断技術

—防護柵等の根入れ長さを測定—

橋梁やコンクリート構造物等の長寿命化のためには、適切な維持管理が必要となる。そのための一手法として非破壊検査がある。

一般社団法人弾性波診断技術協会では、弾性波を利用した非破壊検査により、社会インフラの健全度を把握するための診断技術の開発・向上・普及に努め、各種分科会活動により着実な実績を挙げている。

ここに活動の一部を紹介する。

防護柵等根入れ長さ測定技術推進分科会では、既設および新設の防護柵等の根入れ長さを、支柱を引き抜かず、弾性波を利用した測定装置により、非破壊で測定する技術を開発している。

実施に当たっては、協会の装置認定第一号である「NST-2 埋設部根入れ深さ測定装置」を使用する。その原理は、支柱の地上に露出した上部にセットしたセンサーから弾性波(超

音波)を発振し、その振動が支柱根入れ部の先端に反射し、再びセンサーに戻ってくるまでの時間を測定し、根入れ長さを計算するものである。

協会では社会的意義のある計測装置について、積極的に認定するようにしている。また同時に、測定技術者の技術講習会およびその技術認定も適宜実施している。当面の技術講習会の実施予定は下記のとおりである。

第3回技術講習会(予定)

日時:平成22年9月

会場:(株)日本建設機会化協会

施工技術総合研究所
(静岡県富士市大淵3154)

一般社団法人弾性波診断技術協会

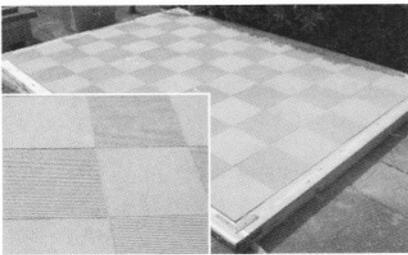
東京都中央区日本橋小網町18-16

URL: <http://www.eitac.jp/>



NST-2
埋設部根入れ深さ測定装置

遮熱性舗装ブロック オーシャンクールテックを開発



太平洋プレコン工業(株)ではこのほど遮熱性舗装ブロック オーシャンクールテックを開発し、本格的な営業活動を開始した。

近年のヒートアイランド現象の広がりを受けて、車道部の遮熱性舗装は、すでに積極的に各地で展開されているが、同社では歩道分野の遮熱性ブロック舗装にいち早く取り組ん

でおり、都市部を中心に需要の拡大を図る意向である。

オーシャンクールテックの遮熱効果

ブロックには高反射率塗料が塗布されている。太陽から届く暑い赤外線はこの塗膜により反射され、舗装の表面温度は低下され、路面の蓄熱が抑制される。

オーシャンクールテックの特長

(1)高い耐候性

遮熱塗料は10年以上の耐候性が実証された製品を使用している。ブロック表面凸部が塗膜を保護するので一部塗膜が剥落しても、遮熱機能は長期間保持される。

(2)メンテナンスフリー

散水や強制灌水などを必要とせず、遮熱塗膜がブロック表面に存

在する限り、長期間遮熱効果が持続される。

(3)品質の安定性・施工性

ブロックのすべり抵抗性等はもちろん、施工・管理においても従来のブロック製品に変わらない安定した品質が提供される。

(4)優れた景観性

影が光の射し具合で微妙に変わる。時の流れ、季節の移ろいなどを心地よく映し出しながら、舗装面が様々に変化し、周辺の景観に絶妙に調和する。

太平洋プレコン工業株式会社

本社 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-9

電話 東京03-3352-3743

URL <http://www.t-pc.co.jp>